

大江首席交渉官代理による記者会見の概要

日時：5月30日（金）17：35～17：50（現地時間）

場所：米国ワシントンDC ナショナル・プレス・ビルディング

【冒頭発言】

オバマ大統領訪日の際に8合目まで行った感じだったが、その後の残りの2合を詰める必要がある。オバマ大統領訪日の直後は、なかなか米国側と会えない状態が続いたが、先般のシンガポールにおける閣僚会議の際に一度協議し、今回はその続きをしに訪米し、昨日と今日の2日間で9時間くらい協議した。進展がないわけではないが、厳しい部分が残っているため、大きく進展させることは難しい。日米ともに国内情勢が厳しいため、なかなか間合いを狭めることができない状態で一進一退が続いているが、少しずつ前に歩こうとしている。

【質疑応答】

（記者）今回はセーフガードや市場アクセスを中心に議論したのか。

（大江代理）セーフガードの問題も議論したが、セーフガードの問題に限らず残っている問題を全て協議する必要があるので、一回議論を通すだけでも時間がかかった。セーフガードの問題と一口に言ってもいろいろな要素があり、それぞれの要素がそれぞれにリンクしているので、それを議論し間合いを狭めるのは難しい。まだ双方が合意するにはまだ長い道のりがある

（記者）今回の協議で進展はどこまであったのか。今後もう一度ラウンドあるか。

（大江代理）内容はいえないが、ある程度の進展はあったが、まだ立場は大きく異なっている。次の会合は数週間後に東京で開催する予定。

（記者）違いを7月の首席交渉官会合までに埋め切ることができると思うか。

（大江代理）勿論可能性は排除しないが、非常に難しいと思う。

（記者）農業分野の市場アクセスについて日米が合意に至った場合、その関税レートは他のTPP交渉参加国にもオファーされるのか。

（大江代理）可能な限り同様の対応をしたい。

（記者）オバマ大統領訪日で8合目まで行ったとのことだが、基本的には残った部分をやったということであり、後退した部分はないという理解か。

（大江代理）基本的にはそうである。

（記者）一進一退とのことだが、8合目からどれだけ進んだのか。

（大江代理）8合目から勿論進んでいるが、昨日と今日だけでも立場がかえって開いたのかと思う瞬間もあったし、そのあとも議論し、距離が少し縮まった感じる瞬間もあり、そういう意味での一進一退があった。

（記者）首脳会談の後、米国の交渉姿勢に変化は感じられるか。

（大江代理）変化ということではないが、議論がだいぶ煮詰まってきた分、ギリギリの交渉を双方がしており、国内との関係でも出来ることが限られてきている。

（記者）米国の農業団体は、今週発出した声明文の中で、日本が市場アクセスについて意味のある譲歩をしない限り、TPPから日本を除くべきであると主張しているが、米通商代表部側から交渉から日本を除外する可能性につき言及はあったか。

（大江代理）ない。

（記者）農業団体のこうした声明に対してコメントはあるか。

（大江代理）日本の農業団体も同様に声明文を発出している。我々はステークホルダーと交渉しているわけではないのでコメントはない。

（記者）先ほど開きがまた広がった部分があったが、また元に戻った部分があったということだが。

（大江代理）開きが広がったというのは合意したことについてではなく、残った部分についても今まで協議してこなかったわけではないので、そういうことについて一進一退しながら間合いを狭める作業をしている。

（記者）広がったと思われた部分は完全にこの2日間で元に戻ったのか。

（大江代理）全体として絶望的になる瞬間もあったが、その後、お互いが前向きになろうということで、また少しずつ方向性を見つけたりする、という一進一退を繰り返している。

（記者）今は絶望的ではないということか。

（大江代理）昨日よりは今日の方が気分が良くなった。

（記者）7月の首席交渉官会合に向けた段取りは決めたのか。

（大江代理）正式には決まっていないが、首席交渉官会合の前に米国側が訪日して

協議することになると思う。

（記者）東京での日米首脳会談の後、米国側は関税撤廃についてより高い柔軟性を示していると感じるか。

（大江代理）オバマ大統領訪日の際に大きな進展があったが、極めて難しい問題が残されており、より柔軟性を示しているということはない。

（記者）7月の首席交渉官会合の前に、米国以外のTPP交渉参加国とも市場アクセスの協議を行う予定か。

（大江代理）その予定である。

（記者）今回期待していたほどの前進は得られなかったのか。また、やはり8合目から先に進むことはかなり難しいということか。

（大江代理）オバマ大統領の訪日以降、米国国内でより厳しい状況が続いている。頂上まで行き着くのは、そう簡単ではない。

（記者）数週間後に東京で協議を行うとのことだが、その後7月の首席交渉官会合の前に更に一度協議する可能性はあるか。

（大江代理）それはないと思う。交渉を行った後、持ち帰って検討し次の会合に向けて準備する必要があるので、今週協議した後すぐに、その翌週に協議することはできない。7月の首席交渉官会合が当初の予定通り開催されることになれば、その直前あたりに次回協議を行うことになるだろう。

（記者）7月の首席交渉官会合の前までに日米が交渉妥結に至ることは難しいという感触か。

（大江代理）交渉ごとであり可能性は排除しないが、そう簡単な話ではない。

（記者）米国国内の状況が厳しくなっているとのことだが、米国のステークホルダーの反応が厳しくなっているとの理解か。

（大江代理）そのように米通商代表部から聞いている。

（記者）甘利大臣が方程式、フローマンがパラメーターという言葉があったが、その部分についてさらに特定できたのか。

（大江代理）方程式の中の残っている部分を全部入れない限り、全て確定しない。残っている部分を方程式に入れる作業を行っているが、極めて難しい。

(記者) 一瞬絶望的になったということだが、方程式あるいはパラメーターが崩れた瞬間があったということか。

(大江代理) そうではない。方程式あるいはパラメーターの残っている部分についてお互いの立場を近づけることが非常に難しいと感じたということ。

(記者) 方程式あるいはパラメーター自体は変わっていないという理解か。

(大江代理) 変えないようにお互いが努力している。

(記者) 米国におけるステークホルダー、特に農業団体が関税の完全撤廃を求めているが、それを米政府が意識するのであれば、方程式あるいはパラメーターが崩れかけているということではないか。

(大江代理) ステークホルダーが求めているからといって、議論を元に戻すというようなことはない。米国がそのような主張をしてきたとしたら日本としても席を立つしなくなる。残されている課題の中で、どこまでできるかということだと思う。

(記者) 重要5品目の中でも、難航している品目を中心に協議したのか。

(大江代理) 残された課題全てについて協議した。今回も私だけではなく、いろいろな交渉官が当地に来ており、同時並行で交渉を行った。私はより難易度の高い課題について協議し、そのほかの交渉官のところでもより技術的な課題について協議した。役割分担をしながら全体について協議した。

(記者) セーフガードの問題につき、牛肉や豚肉等についても協議したのか。

(大江代理) 協議した。

(記者) 方程式あるいはパラメーターについて、セーフガードの問題が一番難航しているという理解か。

(大江代理) セーフガード以外の問題も多く残っているが、セーフガードが大きいな問題であることは間違いない。

(以上)